



令和 7 年度の雪対策の取組の方向性について

1 除排雪事業の業務体制

R6取組内容

(1) 除雪センターの集約と充実

○管理機能の集約と充実及び合理的な運営手法の構築

- ・中央、豊岡・東旭川、東光地区の除雪センターの試行的集約
⇒スケールメリットによる常駐の人員の縮小
試行に係る問合せ等は無く、集約に伴う支障はなかった
- ・管理機能や改善要望窓口の集約、パトロール体制の拡充
⇒地区状況の早期把握により、速やかな改善作業の実施
- ・除排雪業務の進捗状況に応じた速やかな応援体制の確保
⇒状況に応じた応援体制確保による地区全体の円滑な除排雪作業の実施

(2) 除雪DXの推進

○除雪作業の省力化や効率化による生産性の向上

- ・積雪センサー等IoT機器による積雪状況監視・通報システムの構築

○除排雪作業の安全性の向上による働きやすい環境づくり

- ・郊外を担当する除雪車両 3 台に映像鮮明化装置を配備

○改善要望への対応力向上

- ・くらしのアプリ内に通報フォームを新設
⇒位置情報や画像の添付による、現場状況の速やかな把握や対応が可能に

今後の方向性

◎持続可能な除排雪体制の構築

担い手不足等の課題や働き方改革に対応した安全で効果的な業務体制の構築

(1) 除雪センター機能の集約と充実

- ・効率的なセンター運営に向けた業務体制の見直しや地域との協議の実施



R6年度の 7 センターから 4 センター体制へ
(中央、神楽、北星、永山)集約することについて
除雪連絡協議会での意見聴取の結果、集約に理解
(賛成54%、白紙回答27%、反対2%、その他17%)



除雪センターの
更なる集約に向けた
検討を推進

(2) 除雪DXの推進

- ・郊外定点観測地 1 2 箇所にIoT機器増設、郊外パトロールの省人化を推進
- ・通報フォームの活用拡大による効率的な除排雪作業、要望処理等の推進

(3) 除排雪作業における安全性向上の強化

- ・除排雪作業の安全性向上に向け、具体的な対策について除雪企業と協議中



2 路面管理対策

R6取組内容

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

○集中的な降雪等に対する対応

- ・ 計画的対応 強化したパトロールによる状況把握
ザクザク路面の早期改善に向けた体制構築
- ・ 予防的対応 集中的な降雪対策として事前の拡幅作業実施
路面悪化予測時に圧雪を取り除く作業の実施
- ・ 情報発信 路面悪化や対応状況の情報をSNS等で発信

初冬期(12月)における広範囲な路面悪化を抑制

○季節外れの暖気や降雨など気候変動への対応

- ・ 1月7日から16日にかけて気温が高く推移し、
ザクザク路面の発生が市内一円に徐々に広がったため、
通学路等の排雪を進めながら昼夜にわたり解消作業を実施

近年の極端な気象状況下での対応強化が必要

(2) 生活道路の排雪強化

- ・ 1月以降、温暖化傾向により融雪が進んだことから、
状況を確認しながら必要な路線で2回目の排雪を実施

より効果的な実施時期の検討

今後の方向性

◎本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化

近年の温暖化傾向など気候変動を見据えた対応の強化、体制の確保

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

- ・ 初冬期における降雪状況を踏まえた計画的対応の強化
- ・ 蓄積したデータの解析・検証を踏まえた予防的対応の強化

ザクザク路面発生の早期改善と抑制を図るための除雪手法の検討



- ・ 路面悪化や対応状況に係わる情報発信の強化

(2) 生活道路の排雪強化

- ・ 気象状況や路面状況に即した排雪の強化

近年の降雪状況を踏まえた効果的な排雪手法及びスケジュールの検討



12月の対応強化(イメージ)

気象状況に応じ、計画的に生活道路の圧雪を削り取り

圧雪厚減少

課題：幅員は狭小化・雪山は増大

情報発信の強化により市民理解図りつつ課題に対する影響の低減を進める

生活幹線の排雪前倒しの推進
状況に応じた交差点排雪の実施

1月以降のザクザク路面の発生抑制
発生時の影響の縮小化